

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 15 日現在

機関番号：53302

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2016

課題番号：26370784

研究課題名(和文) 奥能登における真言宗寺院の総合調査 - 町野結衆寺院を対象として -

研究課題名(英文) A study of Group of Shingon Temple in Okunoto

研究代表者

宮野 純光 (MIYANO, Yoshimitsu)

金沢工業高等専門学校・一般教科・准教授

研究者番号：20413768

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,700,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は奥能登の町野地区に所在する結衆と呼ばれる真言宗のグループ寺院を対象とした。寺院の所蔵する歴史的資料の調査を行い、それらをデータベース化し、結衆寺院組織の歴史的変遷や地域の特色を考察することを目的とした。

3年間で町野結衆寺院10か寺の調査を行い、所蔵資料のリスト、確認された僧侶のリスト、各寺院の住職のリストを作成した。また、町野結衆の歴史的変遷、資料の伝来、文化財保護、他地域の真言宗寺院との関わり、奥能登近世の信仰圏などについて考察した。こうした成果を公開シンポジウムの実施、研究成果報告書の制作を通して公開した。

研究成果の概要(英文)：This study examines the Shingon Sect, specifically the group Kessyu, located in Machino, Okunoto. The researchers investigate the historical documents and materials stored in the temples. Through the collected database, the purpose of this study is to analyze the historical transition of Kessyu and regional features.

This research of exploring 10 different temples for three years enables the lists of stored documents, the existing Buddhist monk, and chief priest in Machino. This paper also expands on the consideration of Kessyu's historical transition, origin of documents and materials, preservation of cultural property, relationship with other temples of the Shingon Sect, and geographical range of faith in Okunoto. The results of this investigation have been published in public symposium and study reports.

研究分野：日本史

キーワード：寺院史 真言宗 史料学 仏教史

1. 研究開始当初の背景

(1) 先学の成果などの学術的背景

奥能登の真言宗寺院には中世以降地域の宗教活動の拠点となっていた寺院がみられ、近世以降にはこれらの寺院が地域で連帯して結衆という組織を形成し仏教儀礼や法会を維持してきた。これら結衆を構成していた寺院については『輪島市史』や『内浦町史』などで簡単に紹介され、地方自治体などにより文化財調査がなされているが、学術論文などの成果は限られており、これら寺院の中世以降の変遷や近世以降の結衆組織の様子など具体的な研究は皆無という状況である。近年には町野結衆の岩倉寺が神奈川大学日本常民文化研究所により、木郎結衆の法住寺が珠洲市教育委員会により調査され、成果が公表されてきているが、一部の寺院に止まっているといわざるを得ない。また、平成23・24年度には「奥能登における真言宗寺院の年中行事を中心とした民俗調査」として神奈川大学日本常民文化研究所の助成を受けた、畠山聡らのグループが町野結衆の年中行事や一部の結衆寺院の調査を行い、本格的な研究が進められ始めた。

(2) 本研究到達への経緯

最も活動が活発で近世以来の様子を残しているといわれる町野結衆寺院でさえ、明治以降2ヶ寺が廃寺となるなど、社会的な変化によりその様相に変化を生じつつあると考えられる。こうした状況は深刻さを増しており、もとは他の結衆寺院であった平等寺が町野結衆に新たに加わる一方、平成の年代に入り応安6年(1373)の史料にその名がみえる安養寺が平等寺に合併となるなど、結衆寺院や組織の在り方自体に大きな変化が現れており、関係者の高齢化も含めて、一刻も早い現地における史・資料調査・聞き取り調査の進展が必要であるといえる。

過疎化・高齢化など町野の結衆寺院を取り巻く状況の急速な変化や、現在の行政区分を越えた結衆寺院組織全体像の十分な把握という観点から考えると、これまでの調査等だけでは十全なものとはいえず、古い形が残り現在でも結衆の活動が活発である町野結衆寺院で、速やかでより体系的かつ継続的な調査を行う必要性を痛感した。

2. 研究の目的

(1) 各寺院の基本的データベースの作成

奥能登の町野地区の真言寺院が所有する資料の体系的な調査を実施し、調書を作成する。この際、個別の寺院の資料と結衆寺院共有の資料との扱いに留意しつつ、各寺院の所蔵する資料や歴史・歴代住職、あるいは結衆の資料に関する基本的なデータベースを作成する。

結衆の各寺院の資料は、各寺院が独自に所蔵する資料と、結衆寺院が共通で所有する資料とに大別される。この様な2つの性格の史

料群が混在する状況は、寺院の資料の伝来を研究する上で貴重な事例をもたらせるものと考ええる。

また、町野の結衆寺院の多くでは、近年所蔵資料の調査は実施されておらず、本研究によって各寺院でも把握していない新たな資料の存在が明らかになることが予想される。これによって、奥能登地方の地域史、中近世史、寺院社会史、真言宗史等の研究に新たな資料を提供できると考える。

(2) 奥能登の真言宗寺院の歴史の変遷の考察

町野結衆寺院の中には中世から確認され、地域の宗教活動の拠点となっていた寺院もあるが、それらの歴史の変遷については不明な部分が多い。各寺院の所蔵する資料の分析を行い、各寺院の歴史の変遷を可能な限り明らかにするとともに、こうした作業を通して中世以降の奥能登地域の真言宗寺院の在り方について考察する。

石川県全域や北陸地方は浄土真宗の勢力が強く、研究の蓄積が多いことでも知られている。また、曹洞宗や日蓮宗の動向も中心寺院の調査等により明らかになってきている。その一方でこの地域で真言宗寺院がどのような歴史をたどったのか、体系的かつ専門的な研究は皆無であり、その存在形態を考える事は地方史や宗教史の観点からも重要な事例を紹介できるものと考ええる。

(3) 結衆寺院からみる奥能登の地域的特色

結衆という共同体的組織が現代においても明確に維持され、こうした組織に地域の人々の関わりが維持されていることは、奥能登地域、中でも町野結衆の特色といえる。町野結衆寺院が所有する資料群の分析を行い、結衆寺院の組織とその歴史の変遷を明らかにし、更に結衆寺院と地域との連帯の様子を探っていく中で、中世以降の奥能登地域の社会・信仰の歴史の経緯や地域的特色を探っていく。

奥能登地域の社会や信仰がどのように形作られ、地域的特色を生み出しているのか。中世からの宗教活動の拠点寺院を含み、他の地域にはあまり残っていない古い形を残している町野の結衆寺院組織の在り方を通して、奥能登地域の社会・信仰の地域的特色を提示することにより、社会史・宗教史・地方史などの分野に興味深い事例を紹介できるものと考ええる。

3. 研究の方法

(1) 研究方法

調査対象の寺院

輪島市・能登町に所在する町野結衆寺院の14カ寺(13カ寺に合併された1カ寺を含む14カ寺分の資料)を調査する。3年という限られた期間での調査となるため、全寺院を網羅することは不可能だが、調査許可がもたらえた寺院、日程の合う寺院より随時行って

いき可能な限り多くの寺院の調査を実施する。

調査に際しては、神奈川大学日本常民文化研究所の助成研究の参加者に協力者として参加頂き、同助成研究の成果について本研究の遂行に当たって有効なデータを提供頂き、効率的に調査を実施していく。

調査対象と項目・方法

具体的な調査対象としては、古文書、聖教、典籍、絵画、仏像、仏具、版木、石造物等とし、それぞれの調書を作成し写真を撮影する。調書には番号を付し、名称・法量・銘文・奥書・状態などのデータを記載する。調書にとったデータはパソコンでデータベース化する。古文書・聖教については、特に重要と思われるものについて全ページの写真撮影を行う。

また、各寺院の住職など関係者への聞き取り調査を行い、データの補強に努める。

資料の保存への配慮

古文書・聖教・仏画などは保存状態を確認し、必要に応じて個別に文化財に影響の少ない中性紙封筒に入れ、更に中性紙の保存箱に収納、或いは薄様紙で包むなどの処置を施し貴重な資料の保存を図る。

(2) 研究計画

調査計画

年間に5回程度の現地調査を計画し、2～3ヶ月に1回のペースで調査を実施する。研究協力者には、寺院等での資料調査の経験がある者、資料の整理の経験がある者、中近世の寺院や仏教の専門的知識を持つ者を研究協力者としてほしい。そこで奥能登の結衆寺院の調査経験がある4名を中心に研究協力者とする。東京からの移動時間を考慮し、日程は1回の調査を2泊3日(実質の調査期間はのべ2日間)とする。調査寺院への移動も考慮し、宿舎は近隣の国民宿舎能登やなぎだ荘などを利用することとする。具体的な日程は調査先の寺院のご都合と調査研究者がより多く参加できる日程を選び、決定していく。調査先の寺院との日程調整がつかない場合は、他の寺院と日程調整し調査可能な寺院を優先的に行うなど柔軟に対応し、研究計画に遅延が無いように努める。

成果の公開

各寺院における調査結果のデータベース化が進んできた段階で研究目的にアプローチする。研究代表者と研究協力者で個別事例の検討を行なうと共に、学会等において発表し研究を深化させていく。

また、現地調査の際に、調査参加者の成果発表や地元の方々との意見交換を行うために、公開シンポジウムを開催し研究の進展を図る。

研究の最終年度には3年分の調査成果を報告書としてまとめ、他の人々にも利用でき

る環境を設ける。具体的には調査を行った地域の図書館や大学・研究機関の図書館、同一テーマに関心を持つ研究者等に配付できる程度の部数を作成する。

4. 研究成果

(1) 各寺院の所蔵資料のデータベースの作成

今回事業では3年間で73日間の調査を実施し、3,900点余りの資料の確認・調査を実施した。

調査先としては、町野結衆寺院の13カ寺の内、10カ寺(11カ寺分の資料)の所蔵資料調査を実施することができた。この内、高清寺、岩倉寺、永林寺、八幡寺、天王寺、本両寺、長福寺、平等寺(合併の安養寺分含む)については概ね終了し、金蔵寺、西光寺は確認されている全ての資料の調査終了には到らなかった。また、高田寺、佐野寺、法華寺については、今回の事業では調査に到らず、今後の実施を期待したい。

各寺院で調査した所蔵資料のデータは、「名称」、「分類」、「点数」、「年代」、「制作者・書写者・寄進者」などの基本的な項目をまとめ、『奥能登における真言宗寺院の総合調査 - 町野結宗寺院を対象として - (研究成果報告書)』(金沢工業高等専門学校、2017、P58-P149、以下『研究成果報告書』とする)に掲載し、公開した。

こうしたデータには、各寺院で把握されていなかったものも多く含まれており、このような資料の今後の維持・保存に際しても基本的な台帳として活用できるものとする。

(2) 僧侶データベースの作成

今回調査した3,900点余りの資料から確認された、僧侶の基本データを抽出する作業を実施した。僧侶の情報は、各寺院が所蔵する位牌、墓標、過去帳、由緒書などの記載を基本として、典籍・聖教に見られる奥書(書写した年月日・場所・人物などの書き込み)や手沢者名(所有者の名や所蔵印)を記したもの、仏具などの銘文(寄進者や目的などを記した文)などの記載を可能な限り加えた。

こうした記載から、「僧名」・「僧位・呼称」・「年代(没年月日含む)」・「出自」・「典拠」・「奥書・銘文」などをわかる範囲で集め、読み方50音順(推定を含む)に配置し一覧としてまとめた。僧名しかわからず、どのような僧侶なのか早計に判断出来ない場合が多いため、町野とは直接関わりのない僧侶も含んだデータとなった。また、刊行されている報告書や地方史資料などの中で、町野に関わる僧侶の資料データも追加することにより、データの充実を図った上で、『研究成果報告書』(P163-P337)に掲載し公開した。

調査などの際には、僧名のみしか記されていない場合も多く、データベースとの照合によって情報がリンクする場合も数多く確認される事となり、非常に有益であるといえる。

(3)町野結衆寺院歴代住職推移表の作成

町野結衆を構成する寺院の歴代住職について、僧侶データベースを用いて推移表を作成し、『研究成果報告書』(P151-P161)に掲載し公開した。

各寺院では過去帳などで歴代住職を把握している状況があるが、この場合は僧名と没年月日のみが認識されている例が多い。今回の調査で、多くの資料データを集積することにより、どの僧侶がどの時期に住職であったのかをより厳密に絞り込むことができた。

また、過去帳などの後世の編纂物には記載されていないが、資料上では住職として確認される僧侶もいるようであり、各寺院の住職についてのより正確で充実したデータを提供することができた。

(4)公開シンポジウムの実施

3年間の調査によって得た成果を公開すると共に、それらに基づき関係寺院の方々、周辺地域の方々、研究活動に携わる方々とともに行うディスカッションを通して、更なる研究の深化を図るために、平成28年12月3日(土)に国民宿舎能登やなぎだ荘(鳳珠郡能登町柳田)において公開シンポジウムを実施した。

当日は、67名に参加頂き、調査参加者による報告4本とパネルディスカッションを実施し、地元の方や町野結衆のご住職からもご意見を頂き、奥能登の社会や信仰についての理解を深めた。

なお、この公開シンポジウムは、地元の加能地域史研究会に協賛頂くとともに、その様子は地元新聞にも取り上げられた。(『北國新聞』2016年12月4日(日)朝刊)

(5)『研究成果報告書』の作成・配付

最終年の平成29年3月、調査によって得たデータや研究成果を取りまとめた、『研究成果報告書』(P337)を作成した。

この『研究成果報告書』は、研究成果の公開や研究の深化のために、調査先の寺院、宗派の関係寺院、地元の研究機関・図書館、県内外の研究者へと配付した。(なお、『研究成果報告書』に収めた個別の研究成果については以下の(6)を参照のこと。)

(6)個別事例についての考察

研究代表者および研究協力者による個別事例の考察によって、奥能登の真言宗寺院の変遷や資料伝来過程・文化財保護の進展、奥能登の信仰圏などについて新たな知見を得ることができた。

奥能登の真言宗寺院の形成過程

研究協力者畠山聡は、「真言宗町野結衆の歴史と運営」(『研究成果報告書』)において、神奈川大学日本常民文化研究所助成の成果も踏まえて、奥能登の真言宗寺院の形成過程を、近世初頭からの町野結衆寺院の事例を通して検討を加えた。

また、町野結衆の法会関係の資料の分析や住職方からの聞き取りに基づいて、町野結衆の成立時期や運営の仕組みについて述べた。

町野結衆資料から見る真言宗の動向

研究代表者宮野純光は、「町野結衆寺院調査の概要と調査結果の活用」(『研究成果報告書』)において、3年間の調査の概要を述べると共に、伝来資料にみえる僧侶の動向から、町野結衆と近隣の木郎・中居結衆の真言宗寺院とのつながり、中能登、金沢などの真言宗寺院との関係についても確認した。

また、明治維新以後の中能登石動山の破却による僧侶の移動で、町野結衆寺院には従来指摘されていたもの以外に、数多くの石動山旧蔵資料が流入している事を確認し、指摘した。これは石川県の宗教史にとっても有益な成果といえる。

町野結衆の資料伝来と保存

研究代表者宮野純光は、「結衆寺院の調査と資料の伝来」(日本史のまめまめしい知識・第2巻)において、こうした町野結衆の寺院の資料伝来の在り方について、その一端を考察した。

研究協力者高梨佳世子は、「町野結衆寺院資料調査と資料保存」(『研究成果報告書』)において、町野結衆寺院を調査する中で、湿気や害虫の被害にあっている資料保存の現状を述べ、今後の資料保存に関する提言を行った。

結衆寺院と地域社会

研究協力者生駒哲郎は、「町野結衆寺院岩倉寺所蔵「大般若経」と地域社会」(『研究成果報告書』)において、岩倉寺所蔵の幕末期に寄進された「大般若経」の奥書から寄進者の居住地域を挙げ、奥能登の信仰圏を分析した。こうした中で、観音信仰の霊場である岩倉寺は、結衆寺院としての活動よりも広い範囲の人々の信仰対象となっていたことが確認され、こうした範囲も時期により差異があると推測した。

(7)成果を踏まえた展望

町野結衆未調査寺院の調査

今事業で、町野結衆寺院13カ寺の内10カ寺の調査を実施し、その大部分の調査を終えた。しかし、金蔵寺(所蔵のおおよそ半数の資料が未調査)、法華寺といった町野地区の真言宗寺院の中でも中核ともいえる寺院や平氏の末裔時国家の菩提寺である高田寺、中世史料にも名前のみ見える佐野寺が未調査であり、これらの寺院の調査実施・完了が望まれる。これらの調査を実施し考察を加えることにより、町野結衆に所属する寺院を網羅した悉皆調査が完成し、一つの結衆組織の全体像を明らかにすることが可能になると考える。

金蔵寺資料の追跡調査

町野結衆の金蔵寺で実施した調査では、明治から大正期の住職密守榮源師が高野山大学の図書館(密門文庫)へ247巻、種智院

大学(当時の真言宗聯合京都大中學)の図書館へ577巻の典籍等を寄贈した記録が確認されている。これらは密守師在寺以前の江戸時代の資料と思われる、これらの追跡調査を実施することにより、より古い時代の金蔵寺の資料伝来の姿を再現することが可能になるとともに、能登での調査との相互補完を可能にすると思われる。

近隣結衆寺院との比較調査

町野結衆寺院の調査を進める中で、近隣の木郎結衆や中居結衆寺院との間での僧侶の移動も数多く確認されている。これらの僧侶の活動状況をより正確につかむためには、可能な限り木郎・中居の両結衆の寺院調査を実施すべきであると思われる。これら2つの結衆も、町野同様に地域の過疎化や高齢化という問題を抱えており、出来る限り早急な調査の実施が望ましい。こうした調査によって異なる結衆の比較検討も可能になり、結衆組織の更なる解明につながるものと思われる。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計7件)

宮野 純光、結衆寺院の調査と資料の伝来、日本史のまめまめしい知識・第2巻、岩田書院、査読無、2017、208-215

畠山 聡、真言宗町野結衆の歴史と運営、奥能登における真言宗寺院の総合調査 - 町野結衆寺院を対象として - (研究成果報告書) 金沢工業高等専門学校、査読無、2017、22-32

宮野 純光、町野結衆寺院調査の概要と調査結果の活用、奥能登における真言宗寺院の総合調査 - 町野結衆寺院を対象として - (研究成果報告書) 金沢工業高等専門学校、査読無、2017、33-42

高梨 佳世子、町野結衆寺院資料調査と資料保存、奥能登における真言宗寺院の総合調査 - 町野結衆寺院を対象として - (研究成果報告書) 金沢工業高等専門学校、査読無、2017、43-45

生駒 哲郎、町野結衆寺院 岩倉寺所蔵「大般若経」と地域社会、奥能登における真言宗寺院の総合調査 - 町野結衆寺院を対象として - (研究成果報告書) 金沢工業高等専門学校、査読無、2017、46-55

宮野 純光、奥能登における真言宗寺院の総合調査報告 - 平成27年度の調査結果と平成28年度への展望 - 、創造技術教育、第16巻第1号、査読有、2016、6-11

宮野 純光、奥能登における真言宗寺院の

総合調査報告 - 平成26年度の調査結果からみる今後の課題 - 、創造技術教育、第15巻第1号、査読有、2015、50-54

[学会発表](計6件)

宮野 純光、真言宗町野結衆寺院の資料調査と考察、加能地域史研究会、2017.6.25、石川県立図書館 2階県民交流室(石川県金沢市本多町)

宮野 純光、町野結衆寺院調査の概要と調査結果の活用、公開シンポジウム、2016.12.3、国民宿舎能登やなぎだ荘 別館2F(石川県鳳珠郡能登町柳田)

畠山 聡、真言宗町野結衆の歴史と運営、公開シンポジウム、2016.12.3、国民宿舎能登やなぎだ荘 別館2F(石川県鳳珠郡能登町柳田)

高梨 佳世子、町野結衆寺院資料調査をふまえた資料保存について、公開シンポジウム、2016.12.3、国民宿舎能登やなぎだ荘 別館2F(石川県鳳珠郡能登町柳田)

生駒 哲郎、町野結衆寺院 岩倉寺所蔵「大般若経」と地域社会、公開シンポジウム、2016.12.3、国民宿舎能登やなぎだ荘 別館2F(石川県鳳珠郡能登町柳田)

宮野 純光、奥能登の真言宗町野結衆寺院に関する調査と考察、大正大学史学会、2016.11.16、大正大学 5号館(東京都豊島区西巢鴨)

[図書](計1件)

宮野 純光 編集、金沢工業高等専門学校、奥能登における真言宗寺院の総合調査 - 町野結衆寺院を対象として - (研究成果報告書) 2017、337

6. 研究組織

(1) 研究代表者

宮野 純光 (MIYANO, Yoshimitsu)
金沢工業高等専門学校・一般教科・准教授
研究者番号: 20413768

(2) 研究分担者

(3) 連携研究者

(4) 研究協力者

畠山 聡 (HATAKEYAMA, Satoshi)

生駒 哲郎 (IKOMA, Tetsurou)

高梨 佳世子 (TAKANASHI, Kayoko)

西 弥生 (NISHI, Yayoi)